

越後：裸山スラブ、飯士山負欠スラブ

- ◆日程 2019年5月18日(土)～19日(日)
 ◆メンバー L：林、日比野

「スラブに行こう」という言い方で誘われたのは入会以来初めてのことで、これだけで興味がわいてしまった。しかも運が良ければ山菜も採れるおまけつき。しかし、裸山も飯士山も聞いたことがない山だ。標高はどちらも1000mを少し超えるくらい。マイナーな山なのか？それとも地元の人によく行く山なのか？

5月18日(土) 天候：晴れ <裸山ダイレクトスラブ>

関越道の小出 IC から国道に行く。途中山菜採りと思われる車が何台か道路脇に停まっていた。十里峠トンネル手前の林道に入る。なかなか荒れた道である。少し入ったところで車を停め準備をする。

登攀具をつけ最初は沢靴でスタート。桑原沢を右岸に渡り、大きな堰堤を超えてすぐ左手にある雪渓を登る。途中雪渓に穴が開いているところもあり慎重に歩く。雪渓が終わったところでクライミングシューズに履き替える。目の前には大きなスラブが広がっている。フリクションがきいて登りやすい。岩の感触は広沢寺に似ているが、少しとげとげしていて、指の指紋が引っかかる感じ。岩は波打っている。下の方は手を使っても使わなくても登れるのでぐんぐん登れてしまう。スラブの幅が広いので好きなのところを登る。上に行けば行くほど斜度がきつくなってくる。スラブは1時間余りで登れてしまうが、ロープ無しで高度感のある広い岩場を自分のペースで登っていくのは気持ちがいい。スラブの頭からは360度景色が見える。初夏の乾燥した風がこちよ。奥に裸山山頂が見える。ここから藪漕ぎになる。

山頂を通り越し北東方面の尾根を進み桑原沢に降りる。沢に降りる斜面には所々雪渓が残っている。下りだがなかなかきつい藪漕ぎである。登っている時間よりも藪漕ぎの時間の方が長かった。今日は期待していた山菜に出会うことはなかったので、スーパーで食材を買い公園で野営をした。初めてのスラブ登りの余韻にひとりながら新潟限定のビールで乾杯！

(記：日比野)

CT: 駐車スペース発 12:00 - 雪渓越えたところ 12:25/12:35 - 一本 12:43/12:55 -
 スラブの頭 13:45/14:13 - 駐車スペース着 16:40



5月19日(日) 天候：晴れ <飯士山負欠スラブ>

今日もいい天気だ。飯士山登山道入り口には新しい看板が立っていて、駐車スペースの案内も書いてあった。負欠岩コースの登山道を登っていく。途中紫色のカタクリの花が群生していた。1時間位登ると、登山道の右手にスラブが見えた。負欠岩の少し下あたりだ。ここで登攀具を付けクライミングシューズに履き替える。岩場に出てみると、下方にもスラブは広がっていて、すでに高度感がある。加えて風が強いので少し怖い。下方のスラブももったいないので、次回来ることがあったら、登山道の途中で入れる場所を探そう。昨日の裸山のスラブに比べると岩の表面のとげとげ感は無いがごつごつした感じ。このスラブも幅が広いので好きなところを登ればいいが、風が強いのでバランスを崩さないように易しそうな場所を選んで登る。足を滑らせたとしても止まれるが、転がったら止まらないだろうと思うとヒヤヒヤする。後ろを振り向くと、湯沢の町や周辺のスキー場が良く見える。その向こうには苗場山。ヒヤヒヤしながらも、フリクションのきいた岩をグングン登っていくのは気持ちいい。今日も1時間位でスラブは終了。上部で少しだけ藪漕ぎをして尾根道に出る。ここで一休みして、すぐ近くの山頂に行ってみる。こちらでも昨日に続き360度の景色を堪能。標高は1111mだが、景色がいい。苗場山、巻機山、八海山、越後駒ヶ岳、大源太山などなど、それに加え平野も遠くまで広がっていて、とても奥行きがあり広々した景色である。関東ではこういう景色は見られない。下山は尾根コースを行くが、尾根とは思えないほどの急斜面でかなりの高度感であった。

午後は、魚野川檜又谷を偵察に行く予定であったが中止し、近くの山に山菜を探しに行き、温泉に入って帰路についた。麓から見える飯士山の上部は大きなスラブがはっきり見える。

今回のようなスラブの登りは、シーズンの始めに高度感と岩登りの感覚を慣らしに行くにはとてもいいと思った。本チャンの岩をやったことがない人も練習にいいと思う。

(記：日比野)

CT：駐車場発 7:25 - スラブ下部 8:20/8:40 - 手前のピーク 9:43/10:07 - 飯士山
山頂-10:18/10:32 - 駐車場着 12:03

『スラブ：表面に凸凹がなく、一枚岩でなめらかな岩壁をいう。』

